

伊丹市 文化財ボランティアの会

発行:伊丹市文化財ボランティアの会

発行所:伊丹市まち資源室文化振興課内 (伊丹市千僧1-1-1)

市民ガイド(令和5年度 第1回ガイドブックを片手に伊丹を歩こう)

「猪名野神社から緑道に沿って伊丹廃寺跡へ」

天気予報では30度越えになるとの話題が持ちきりだった6月17日。梅雨の晴れ間なのは会員たちの日頃の行い?などと話しながら参加者をお待ちしました。参加は、伊丹の方2名、尼崎から1名の選ばれし御三方。少人数ながら皆さんリピーターで、文化財ボランティアの活動にファンの方がついてくださっていると感じます。この日は発音寺で御本尊を拝観できる機会でもあり、ホスト側は参加者の2倍の6名!で挑みました。

猪名野神社からスタートし、発音寺へ。本尊の十一面観世音菩薩、大日如来坐像、三面大



黒天立像が間近で観られるだけでなく、副住職による解説も。お寺について、像について、仏足

石についてなど、お人柄が現れたその丁寧な語り口に皆惹き込まれました。

現在では失われてしまった錫杖を持っていたという、観世音菩薩のすべらかな手の美しかったこと。そして、大黒天立像の彫刻としては異例の大作といわれる大黒さんは夢に出てくるんじゃないかと思わせる生々しい迫力がありません。

次のスポットの白洲屋敷跡から、伝和泉式部の墓へ。予想通りの暑さで、伊丹坂ですこし息

切れする参加者の方もいましたが、山本康夫さんの「坂道はジグザグ歩行」アドバイスに従って進んだり



終始アットホームなムードでした。この辺りでは、別グループに遭遇、その方々も一緒に角谷さんのガイドに耳を傾ける一幕も。

伊丹市内ボランティアガイドのご案内

伊丹市内にある文化財(史跡)のガイドをご希望される方は

伊丹市文化振興課 文化財担当まで 電話(☎:072-784-8090)

または文化財ボランティアの会にメール(ibunbora@yahoo.co.jp)でお申込みください。

【ガイドコース】

- A コース:有岡城跡・本泉寺・墨染寺・旧岡田家住宅(酒蔵)・金剛院・猪名野神社など
- B コース:猪名野神社・発音寺・伊丹緑道・辻の碑・緑ヶ丘公園・伊丹廃寺跡など
- C コース:安楽院・旧西国街道・東天神社・関伽井・正覚院・昆陽寺・師直塚など
- D コース:昆陽池・鴻池神社・慈眼寺・鴻池稻荷祠碑・容住寺・天日神社など
- E コース:御願塚古墳・都市景観形成建築物・須佐男神社・南野神社・健速神社など
- F コース:桑津神社・加茂神社・称名寺・春日神社・松源寺・岩屋遺跡・口酒井遺跡など

辻の碑から臂岡天満宮への道中では、北村の旧地名案内板や教善寺前で、末次会長のプラスαの案内もありました。

そして、伊丹廃寺跡へ。正午過ぎに解散、参加者の方からは「ボリュームたっぷりだったね！」との声が聞こえました。百戦錬磨の皆さんのガイドによって、伊丹が摂津のへそであることを感じて頂けたことでしょう。

私は旗持ち役だったのに、メモを取るのに必死になってしまい…末次会長や玉浦さんに旗を

持っていていただいてしまって、かたじけないやらありがたいやらでした。



(長谷井 記)

躍動する「花の28(にっぱち)組」～自主性・積極性の働き蜂8人衆～

第28回文化財ボランティア養成講座(全8回:1月17日～3月11日)の第8回目「文化財ガイド実習本番」を終えて、修了証を取得した8名全員が、文化財ボランティアの会に28期生として入会した。この人たちを「花の28(にっぱち)組」と呼ぶこととする。

この28組の8人衆は、養成講座ガイド実習の時から、分かり易く説明するために担当スポットに関する視覚資料



(写真、文字、絵、地形図、羽子板・羽根など)を準備するなど、それぞれに工夫をこらしたガイドを展開した。入会後も自主性・積極性を発揮しつつ、ガイド力のさらなる向上を図っている。

4月23日に高槻の団体21名からAコースのガイド依頼を受けていた。4月11日総会が始まる前に、新しく入会された8名の方々に入会歓迎の挨拶と同時に、養成講座と同じスポットをガイドするよう依頼したところ、5名が受諾。ガイド当日、各担当スポットでは、参加者(聴衆)から拍手が起こる場面もあるなど、上々のガイドデビューを果たした。

6月に入ってガイドラッシュ(「ガイド夏の陣」)が起きた。6月16日から7月7日まで5つの

団体からガイド申し込みを受け付けたのである。ガイドチームの編成に苦戦を強いられるところだったのだが、28組のなかに、定例会で配布の「ガイド依頼・実績表」を見て、「Aコースのガイド申し込みが多数あり、自分にも案内させて欲しい」「ガイドしたいので、集合場所・時間を教えて欲しい」とメールをして来る人たちがいた。6月17日市民ガイドでは、「旗持ちで良いから参加させて欲しい」という人もいた。

このように自ら申し出るほどガイドに熱心で、自主性・積極性がある働き蜂8人衆(「花の28組」)の将来が楽しみである。(大事な人たちを「蜂」呼ばわりして、申し訳ない)

5回のガイドで複数回参加した28組については、担当スポットを変えるなど、場慣れしつつ、守備範囲も広げてもらうよう配慮した。

7月7日は気温30度を超える中でのガイドだった。ガイドを担当した28組のおひとりに「もうガイドが楽しくなってきたのではないですか?」と訊いてみた。すると、涙なしには聞けない答が返ってきた。「ガイドをするための事前勉強が楽しい」と。

この人、1年後にはプロのガイドになっているのではないか、と思った次第である。



(末次 記)

旧岡田家住宅・酒蔵 夏季当番制ガイド実施

令和5年4月から6月の3か月間、会員による当番制でのガイドを実施いたしました。天候不順の影響もあり雨の日が多かった時期でしたが、ガイドを楽しまれた人、久しぶりのガイドに緊張された人、見学者が少なく時間を持て余した人、さまざまな感想が日誌に綴られていました。4月入会の会員もベテラン会員のガイドの様子を見学され、今後のガイド活動の参考になったことでしょう。

次回は9月から11月の3か月間実施いたします。

(編集担当 記)



＝旧岡田家住宅・酒蔵 ガイドーロメモ＝

「甑(こしき)倒し」と「皆造(かいぞう)」

そろそろ気温が上がってくる頃、酒造りの末期になって、最後の醪(もろみ)の仕込みを終えることを「甑倒し」と言います。「甑」とは米を蒸す器具のことで、毎日麴米や掛け米を蒸す為に使われていますが、最後の仕込みを終えると蒸す工程がなくなる為、横倒しにして洗浄されます、このことから、この日を甑倒しと呼ぶようになりました。酒造りの区切りとして、この日に祝宴を催す酒蔵も多くあります。

もう一つ、「皆造」という区切りの日があります。こちらは全ての醪(もろみ)を搾り終え、最終検定を受ける日のことで、蔵全体の醸造機能の区切りとみた場合、「皆造」の方がより“終わった感”があります。

(酒井正憲 記)



「新・伊丹史話」拾い読み

牧野博士が伊丹にやってきた

2023年4月から放送されているNHK連続テレビ小説「らんまん」は日本の植物学者・牧野富太郎をモデルにしたドラマです。明治から昭和の世を天真らんまんに駆け抜けた天才植物学者の物語を、毎朝楽しみにしながら観られている方もおられることでしょう。この牧野氏が伊丹に立ち寄ったことが「新・伊丹市話」に紹介されていました。

それは「柿衛文庫」の章で、台柿を説明するところに登場します。昭和7年(1932)ころ、岡田家に立ち寄った植物学者の牧野富太郎博士は、岡田家の庭に植わっている台柿の木に「柿の寿命三百年を優に上回る逸品」と折り紙をつけ、天然記念物にすることを強く勧めたという記述があります。その台柿は伊丹に来遊した儒学者頼山

陽が宴会のデザートとして食し、美味しいと絶賛したという言い伝えがありました。昭和七年は東京帝国大学から理学博士を受けた五年後で、植物学者としての地位が広く認められた頃のことです。

博士のお墨付きをいただいた台柿はその後大切に育てられましたが、昭和63年(1988)伊丹市工芸センターの建設工事の際、移植に失敗し翌年枯死しました。

現在の市立伊丹ミュージアムの日本庭園には、第2世の台柿が「頼山陽ゆかりの柿の木」として、往時を偲ばせています。

※「新・伊丹史話」265ページ引用

(編集担当 記)



(寄稿) 土佐の小京都 “中村” を訪れる

土佐一條公家行列「藤祭り」と歴史

酒井 正憲

5月の連休、所用のため、高知県西南部を訪ねる機会がありました。コロナ禍も少し収まり、久しぶりに土地の伝統行事が開催されていたので、行事の様子とその周辺の文化財の歴史等を紹介したいと思います。

四万十市は旧中村市と西土佐村が合併して平成17年(2005)に誕生しました。旧中村市は今から約550年前、前関白一条教房が応仁の乱を避けて、この地へ下向し、京都を模した碁盤の目の街づくりを始めたことから「土佐の小京都」と呼ばれています。高知県の南西部に位置し、豊富な山林資源と日本最後の「清流四万十川」、南東部は太平洋に面しており、自然環境に恵まれています。

この四万十市で、毎年5月3日には「藤祭り」と共に「土佐一條公家行列」が行われていました。ここ3年ほどコロナ禍で中止されていたので、第29回の今年は規模を縮小して約100名で行ないました。一條太鼓で始まり、一條神社から一條通りを歩き、天神橋アーケードや東下町を通り、幡多事務所を廻って一條神社に戻るコースで1時間あまりでした。第29代玉姫は「四万十川キャンペーン観光大使」の伊吹美乃さんに決定されました。

では、「一條神社」の由来について述べますと、一條神社は一條教房が中村の地に下向された後、中村御所内の小森山に一條家の先祖



の御廟所をお祀りしたことに始まります。土佐一條家の滅亡後、慶長12年(1608)一條家の遺臣たちは土地の庄屋達と相談し、一條家の徳に仰ぎ祠を建て、一條家にかかわる人々の霊をお祀りしました。

一條家は遠く、中臣鎌足(藤原鎌足)に始まり、摂政・関白に任じられる五摂家のひとつであります。

前関白教房公下向後、息子房家公を初代として土佐一條家と呼ぶようになります。特に教房公、房家公は中村に京都の文化を取り入れた街づくりに励まれ、小森山(一條神社のある場所)を中心に東西115m、南北150mにわたる広大な土地に御所館を構え、館の中には蹴鞠場、藤見の藤遊亭、7つ井戸があり、境内には女官達が使ったというお化粧の井戸が残っています。

御所館の周りには碁盤目に街並みをつくり、家臣や商家がきらびやかに立ち並んでいます。今も京町、宮田小路、羽生小路、鴨川、東山などの地名が残っています。

また、藤原氏の祖先を祀る春日神社、京都八坂神社を勧請した祇園神社、石清水八幡宮を勧請した不破八幡宮等を創建しました。さらに、下田港、清水港や明との貿易も行い、一條家は富み栄え、土佐第一の町として賑わいました。しかし、度重なる洪水、地震、火災のため多くが消失し、当時を偲ぶものが少ないのは残念なことです。

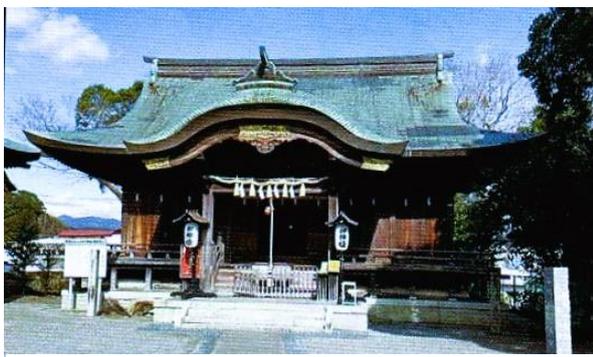
土佐国司、土佐一條四代兼定公が中村御所を去る時に、「植え置きし、庭の藤ケ枝心あらば、来む春ばかり 咲くな匂ふな」と詠まれました。「咲かざる藤」が文久元年(1861年)見事に美し



く花を咲かせるということが起こりました。

時の幡多郡奉行、中村目代、大庄屋等が一体となり、一條家の遺徳を顕彰し、幡多郡民の総鎮守の神として崇め奉るため社殿を造営し、毎年3月には神輿を、十月の祭礼には相撲を奉納することなどを定め、一大祭典を行う事を郡民に命じて、翌年の文久2年(1862年)一條神社が創建されました。

現在、一條大祭は、土佐の三大祭りの一つと数えられ、当日は数万人の参詣人で賑わっています。



一條神社

明治 33 年(1900)に県社に列し、皇室の尊崇も厚く昭憲皇太后(旧名一條美子=明治天皇の皇后)の御代参、御下賜金を賜り、大正 11 年(1922)11 月には摂政宮殿下(昭和天皇)の名代として侍従の御参拝、また昭和 3 年(1928)には久邇宮朝融王殿下が御参拝されました。

次に、「中村城」は四万十市(旧中村市)丸の内に中世から近世にかけて存在した平山城跡です。為松城の別名をもつ、四万十市指定史跡です。

応仁の乱を避けた一條教房が、荘園(幡多荘)であった中村に下向し、そのまま土着し、もともこの地にいた豪族の為松氏が家老として取り立てられ、その為松氏によって築城されたのが始まりと考えられています。

代替わりして一條兼定の時、兼定は豊後へ追放され、その後一條家は長宗我部元親に攻められて滅亡しました。天正 2 年(1574)、吉良親

貞が城主になりますが、2年後に死去しました。

関ヶ原の戦い後、戦功により、山之内一豊に土佐一国が与えられ、山内一豊の弟康豊が入りますが、元和の一国一城令に伴い廃城となりました。



中村城

城は西に四万十川、東に後川が流れ、中村平野を一望できる丘陵に築城され、面積は約1万㎡あり、遺構は石垣が残っています。石垣は中村藩 2 代藩主山内政豊時代の慶長 18 年(1613)に修復されたものです。現在は「為松公園」になっていて、二の丸跡に四万十市立郷土博物館があります。

(参考)

★玉姫 1521(降嫁)～1547 年

一條房冬の妻、伏見宮邦高親王の王女

★不破八幡宮=国重要文化財指定

文明年間(1469～1487)に、一條氏が京都石清水八幡宮から勧請して幡多の総鎮守としたもので本殿は三間社流造り、屋根はこけら葺き、室町時代の建築様式が色濃く漂っています。

★五摂家

鎌倉時代以降、摂生、関白に任ぜられる家柄を「五摂家」といいます。五摂家には、近衛家、鷹司家、一条家、二条家、九条家があります。

研修サロン班活動報告

屋外研修の記録

4月20日(木)「豊中市北西部 阪急蛍池～石橋」 参加13名

新年度最初の屋外研修は伊丹市と空港を隔てた東隣の豊中市北西部、阪急蛍池駅から刀根山、大阪大学構内を巡りました。

蛍池駅の西側近くの公民館敷地一帯には麻田藩青木家1万石の陣屋が置かれていた。陣屋跡の記念碑は工事のため撤去されていました。緩やかな坂道を登り、旧刀根山村に向います。刀根山御坊と呼ばれる浄土真宗常楽寺は、かつて信長が有岡城攻めに築城した刀根山城の跡地に建立されたと言われていいます。あと中国道を越えて大阪大学の構内に入ります。待兼山修学館は昭和6年(1931)に付属病院の



待兼山修学館前にて

分院として建てられ、登録文化財の指定を受けました。現在は内部を改造して総合学術博物館として利用されています。博物館見学のあとはモダンなテラスでランチタイムとなりました。

さて最後に目指すは古来数多くの歌に詠まれた待兼山、修学館裏の緩やかな坂を登ると山頂に至ります。しかし頂上と思しき場所には標高77mの三角点がポツンとあるだけ、殺風景そのものでした。

5月26日(木)「阪急園田界隈」 参加6名

園田地区は猪名川が藻川と分岐する中洲にあります。今回は阪急神戸線より北側の穴太(あのを)、富田(とんだ)、椎堂(しどう)、いずれも難読地名と思われる3つの旧村を巡りました。

穴太の白井神社は「歯神さん」として信仰を集め、園田近辺には白井神社が4ヶ所あります。

一方穴太には古来寺院がなく、現在は大正初期に生駒から移転してきた福田(ふくでん)寺があります。富田には甲斐武田氏当主武田勝頼の三男勝親(かつちか)の墓があります。椎堂ではその昔猪名川水運に使用されていた高瀬舟の舟板が建物の壁材として使用されているのを見学しました。



武田勝親の墓所(富田)

園田地区は水害に悩まされ、昭和13年(1938)の阪神大水害で大きな被害を受けました。河川の蛇行を直線化する工事が完成したのは1969年のことです。旧堤防および河川

敷地内は尼崎市内では珍しい自然林が保存され、風致公園として利用されています。また弥生～古墳時代の遺跡が広く分布しており、当時の海岸線は現在よりも北上して園田地区に近く、イダコ漁用の小さな蛸壺が多数発掘されています。最後にクリームパンで有名なお店に寄り、各自おみやげを買って帰りました。



6月15日(木)「西野・昆陽井」参加9名

西野は伊丹市の西北部に位置して、武庫川に接している。今回は西野から昆陽井を溯り、宝塚市内にある武庫川からの取水施設まで足を延ばしました。

大樋橋のバス停から北方向に西野の中心街を歩き、庚申堂、ソングョ塚、あと大師堂地蔵堂、役行者祠を巡りました。最後に地区の北端に鎮座する素盞鳴神社を訪れました。このあと昆陽井を遡るコースに入ります。しばらく歩いて大堀川に架かる西野橋を渡ります。西野橋は伊丹市と宝塚市の境界になっており、この地点で大堀川から取水する昆陽井元樋があります。大堀川を500mほど遡ると水道用水を取水する伊丹市の施設が設置されています。昆陽井の最上流施設は武庫川本流に堰を設けて取水する昆陽井堰です。もう一息足を延ばして本日の最終目的地に到着しました。



武庫川の昆陽井堰を背景に

(松田 記)

【研修サロン班 活動報告】

(勉強会)5/11(木)「尼崎園田界限」、6/1(木)「西野・昆陽井」、7/20(木)「伊丹郷町」、
(屋外研修)5/26(金)「尼崎園田界限」、6/15(木)「西野・昆陽井」

9月 研修サロン班 勉強会・屋外研修のテーマ(予定)

“承久の乱”の発火点となった椋橋荘(くらはしのしょう)

猪名川の下流域は古くから交通の要衝であり、多くの古墳が発見され、権門の荘園がたくさんありました。このうち椋橋荘は12世紀にかけて現在の尼崎市園田駅東部付近から豊中市庄内にかけて、最盛期は西椋橋荘と東椋橋荘(猪名川の東西で)に広がっていたとされます。

日本史上初の朝廷と武家政権の間で起きた武力による争い“承久の乱”、大河ドラマ“鎌倉殿の十三人”でどのようにとりあげるか、注目していました。

建保7年(1219)、将軍実朝が暗殺されると、後鳥羽上皇は使者を鎌倉に差し向け、実朝の死を弔うとともに、寵愛する白拍子亀菊が領家職を持つ、摂津国長江・椋橋両荘の地頭職の罷免を執権北条義時に強く要求しました。これに対して北条義時は、源頼朝が勲功の賞として補任した地頭職を罪もないのに改める

ことはできないと主張して、上皇の要求を拒否し、回答のため弟の時房に兵百騎をつけて上洛させ、その決意のほどを示威。上皇は、ついに承久3年(1221)に、北条義時追討の宣旨を発して挙兵し、承久の乱を起こすに至りました。

このうち、長江荘は残念ながら不詳です。豊中市庄本にある椋橋総社の拝殿横に亀菊天満宮という社があり、文政年間(1818~1831)に亀菊の遺徳を偲んで建てた社です。

(村正司 記)



椋橋総社

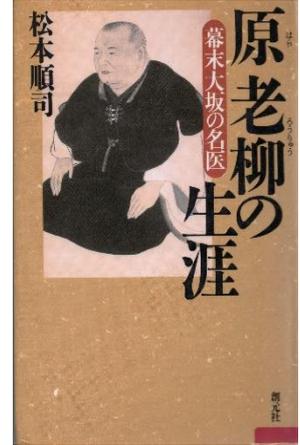
お薦めの本

「原老柳の生涯」 松本 順司

副題に「幕末大坂の名医」と記されているとおり、原老柳は当時の医師番付表で西の大関に載せられるほど医術の評判は高かった。貧富や身分の分け隔てなく患者と接する態度は、多くの人に慕われた。「老柳の盥(たらい)」は後世に「仁医」と評される有名な逸話である。

ところが、厳格な医業の家庭で育った反発からか、10代で酒と遊郭通いを覚え、その生涯は自堕落な一面もあったという。それでも、達磨さんのような肖像画が示すように、優しい雰囲気を出し出す人柄を慕って多くの人々が老柳の下に集まり、援助を惜しまなかった。

文化14年(1817)、酒造りの盛んな伊丹郷町で開業し、伊丹の地で頼山陽を初め、多くの文化人との親交を深めている。自由奔放な暮らしぶりの中に、ほのぼのとした親しみを感じさせる人生である。(編集担当 記)



活動記録 (5月~7月)

【定例会】・5/9 (火) ・6/13 (火) ・7/11 (火)

【史跡ガイド】・6/16 (金) Aコース (高齢者大学 大阪市) ・6/17 (土) 令和5年度第1回市民ガイド『伊丹廃寺跡と伊丹緑道』・6/18 (日) 旧岡田家・旧石橋家 (大学通信教育受講生 西宮市) ・6/21 (水) Aコース (歴史探訪OB会 神戸市) ・6/21 (水) 旧岡田家・旧石橋家 (コミュニティカレッジ 豊中市) ・6/23 (金) Aコース (文化資料館友の会 亀岡市) ・6/23 (金) 旧岡田家・旧石橋家 (文化資料館友の会 亀岡市) ・6/30 (金) Aコース (歴史探訪同好会 芦屋市) ・7/7 (金) Aコース (コミュニティカレッジ 豊中市)



【研修サロン班 活動】6・7pに詳細を記載

【学習支援班】紙芝居公演 6/23 (金) 老人会 (堂前センター)
7/29 (土) こども寺子屋 (ラストホール)

【岡田家当番】令和5年4月15日から6月30日まで実施

今後の予定 (8月~10月)

【定例会】・8/8 (火) ・9/12 (火) ・10/10 (火)

【史跡ガイド】・9/16 (土) 令和5年度第2回市民ガイド『有岡城跡から猪名野神社』
・9/22 (金) Aコース (歴史探訪OB会 神戸市) ・10/5 (木) Cコース (コミュニティカレッジ 豊中市) ・10/14 (土) Bコース (退職者団体 伊丹市) ・10/28 (土) 令和5年度第3回市民ガイド『伊丹空港周辺の遺跡』

【岡田家当番】令和5年9月から再開

情報満載のホームページをご覧ください <http://bunkazai.hustle.ne.jp/>

主なコンテンツ

- ・会の活動内容、会報(火曜会通信)の全データ
- ・伊丹文化財一覧、伊丹ゆかりの歴史上の人物
- ・町の小さな文化財、文学碑巡り、旧地名の案内板
- ・ガイド豆知識、動画集、写真集、ものしりクイズ
- ・ガイドスケジュール、自由研究の紹介など

